

以下に、

**宮坂尚市朗氏のインタビューから、
現時点での主な町政課題をどうのよう認識し、
現時点において4期目を目指したいとするものを
3つの視点にまとめました。**

「強靭でしなやかなまち」

「復旧から復興へ」

「育成と挑戦」

各分野に重複もありますが、皆様からご意見を下されば幸いです。

第1 強靭でしなやかなまち、災害復旧の推進

厚真町の取り組むべき課題の1丁目1番地は胆振東部地震災害からの復旧です。

既に1年8か月が経過し、国や北海道など様々な関係機関のご尽力により、目に見えて復旧作業が進んでいますが、被災者の心を癒す時間と支援はまだ必要です。さらに、山間地の特性や地域的事情に加えて既に予告されている他の大規模自然災害の影響や後年度負担などの財政事情など様々な課題を抱えてもいますが、今できる最適解を見つけながら2次被害の拡大防止のため、日常を一刻も早く取り戻すため、地域の安全性を高めるため、町民が一丸となって目の前にある困難を乗り越えていかなければなりません。

- ・その他、被災町道の早期復旧と被災時の孤立化を予防する幌内左岸線など町道の複線化
- ・日高幌内川・知決辺川・近悦府川・東和川国直轄砂防事業の促進
- ・幌内沢の段波対策、吉野ほか北部山間地の急傾斜地崩壊対策事業、砂防事業、治山事業の促進
- ・多目的厚幌ダムの崩土除去など災害復旧事業を促進し、早期の機能回復
- ・宅地堆積土砂の除去の推進と宅地周辺の安定化
- ・宅地耐震化の推進
- ・その他公共土木施設の災害復旧の促進
- ・富里統合簡易水道施設の早期復旧
- ・厚真ダムと勇払東部国営農業用水直轄災害復旧の促進
- ・林道、林業専用道、林業作業道などの早期復旧
- ・治山事業の促進と被災公有林及び私有森林の造林など復旧制度の早期構築
- ・町営スケートリンクの早期復旧



- ・コミュニティ所有施設の早期復旧
- ・災害公営住宅及び公営住宅の早期建設など

2. 地域力の再生と社会福祉の増進

大規模な自然災害が続く災害列島にあって、助けられる命を助けるために、また、安心して住み慣れた地域に住み続けるためにも、地域の防災力・減災力を高める努力が必要です。こうした、防災意識社会を目指して、自主防災組織やコミュニティの組織強化を図ります。

厚真町の高齢化率は約37%、さらに応急仮設住宅に入居されている方の多くは高齢者であり、社会福祉協議会の支援や地域の支え合いが、孤独感や不安感を軽減させるカギとなります。恒久的住宅の確保に加えて関係機関や地域の皆さんと連携して健康状態や心のケアに配慮してまいります。

その他、北部山間地において小さな拠点の形成と地域課題解決の向けた多機能型の取り組みを持続的に行うための地域運営組織の形成（日用品等の販売、ガソリンスタンドの運営、カフェ・サロンの運営、買い物代行・見守り、フィーダー網の確保）

- ・その他北部地区コミュニティセンター建設などによる防災拠点設備整備
- ・北部地区への集落支援員の配置
- ・地域コミュニティ施設長寿命化と拠点避難所機能の充実
- ・厚真町社会福祉協議会の体制強化
- ・厚真福祉会高齢者福祉施設の移転復旧の支援
- ・民設サービス付き高齢者向け住宅建設の支援
- ・ゲートキーパーの養成、旭川大学や北海道臨床心理士会などの連携など



第2 復旧から復興への挑戦、生業の復興

1次産業の中でも農業・農村を取り巻く環境は、グローバル化の進展とともに価格競争や消費者ニーズの多様化がさらに増していますが、その一方で、農業生産や流通を取り巻く技術進歩も目覚ましく、生産者の営農形態の弾力化や品質向上を通じたブランド化への取り組みが欠かせません。また、地場産品を縁とした起業や商品開発、6次化の動き、農泊を中心とした体験型観光などにも注目が集まっていますので、様々な分野に跨りますが、厚真町を応援していただいている全国の皆さんとの連携を強化してまいります。



- ・その他、国営かんがい排水事業勇払東部地区の早期完成
- ・富里、幌内、鹿沼地区等の道営農業農村整備の促進
- ・JA共同利用施設の整備支援、地域資源を活用した地域の活性化
- ・酪農・和牛経営安定化対策事業の推進による生産基盤の強化
- ・新農業者育成の推進及び事業継承モデルの検証
- ・地域全体の仕事を組み合わせ（派遣など）、年間を通じた雇用の確保など特定地域づくり事業協同組合制度の検討・実装

- ・有害鳥獣被害防止対策
- ・鵜川漁協共同事業や広域資源管理型漁業の推進
- ・商工業の経営拡大や経営改善に必要な経営基盤強化事業の推進
- ・6次産業化などの起業家人材、就業者の広域確保
- ・地域ブランドの創造（あつま産ハスカップのGI表示、地域団体商標登録など）
- ・マイナポイントなどによる電子マネーの普及による所得の域内循環の改善
- ・5Gの商用サービス開始に向けた事業者との連携
- ・グリーンツーリズム、農家民泊事業の推進など

2. 地方創生と復興への道

災害復旧から復興へ局面の展開は、誰かがお膳立てをしてくれるものではありません。厚真町民自らが準備し、自らの選択により、自らが挑戦していかなければなりません。私たちが立ちすぐむことを望んでいないとの先達の声に応えて、生産力向上や体験型観光など新たな分野における潜在力を耕し、高速情報通信技術などイノベーションの実装や地域再生、土地利用の適正化に加えて民活施設・設備や共同利用施設、公共施設群を聖域なく見直し、再編成、再構築を目指します。また、コロナ禍の先にある分散型社会に求められる地方のしなやかさ、安全、安心の価値を磨き、テレワークやサテライトオフィス、企業誘致に努めます。



- ・その他、震災遺構整備、震災記憶の継承
- ・幌内地区活性化計画の実施
- ・新パークゴルフ場の整備
- ・豊沢百年記念公園の改修
- ・災害減災拠点施設整備
- ・役場庁舎、消防組合厚真支署建設
- ・文化ホール等建設及び埋蔵文化財展示施設等整備
- ・交流促進施設増改築
- ・胆振東部3町の広域連携による滞在型観光の企画誘致
- ・定住促進団地の整備、空き家活用による定住促進住宅の整備、季節居住団地の整備
- ・既存ストック活用による「多世代共生型のまち」、「農村地域等移住促進地域」の検討
- ・小規模住宅地区改良事業等による北部地区定住化など



第3 次世代育成と子ども子育て、教育環境の充実

震災の復旧・復興や社会福祉の増進を含めて、まちの未来を切り開いていくためには、地域社会で活躍する人材の確保や育成が必要です。これまで地域おこし協力隊や地域おこし企業人などの制度活用と国庫補助制度や町単独でサポートしてまいりましたが、今後は、町ぐるみでの人材育成・確保体制を構築し、挑戦者への門戸を広げ、さらなる定着と人が人を呼ぶ好循環を創出していく必要があります。

- ・その他、UIJターンによる起業支援と就業者の育成確保（福祉分野を含む）

- ・集落支援員の設置、地域おこし協力隊、地域おこし企業人などの招聘
- ・チャレンジモール整備検討
- ・サテライトオフィスの誘致推進
- ・関係人口の増加を図り、ワンストップ窓口の設置など民間支援機関との連携ほか

子どもたちは、厚真町の未来であり希望でもあります。学校教育や社会教育においても厚真町の環境を丸ごと活かして生きる力、自ら学び考える力を育みます。シニア層や現役世代も隔てなく、厚真町の潜在力そのものでありますので、自らを耕しながらおす意意識をもって、地域における子育て・教育力向上に積極的に参画していただき、また文化と災害記憶の伝承を担っていただける環境を整えます。



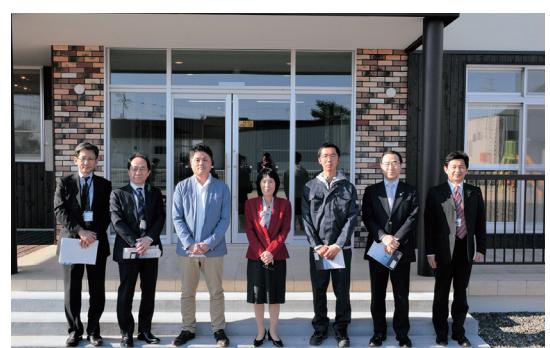
- ・その他、子育て支援住宅の増設
- ・認定こども園の魅力向上と保護者など地域力の育成
- ・冒険の杜やフットパスなど森林の活用拡大
- ・英語圏における体験教育実践による英語教育の深化
- ・GIGAスクールの早期運用、eラーニングの検証
- ・広域でのスポーツ・健康まちづくりの推進
- ・厚真高校の魅力化支援
- ・大都市圏の児童生徒との農村交流・留学など

2. 健全な行財政運営と広域連携、新時代に向かう挑戦

第4次総合計画、都市計画マスタープラン、地域防災計画などの改定や第2期地方創生総合戦略、国土強靭化地域計画、第8次農業振興計画などの策定においては、地方移住のすそ野の拡大を目指す「関係人口の創出・拡大」、誰もが活躍する地域社会の構築を目指す「多様な人材の活躍の推進」、SDGsやSociety5.0の推進による「新しい時代の流れを力にした持続可能なまちづくり」、インフラの強靭化と自ら行動する「防災意識社会」などの視点が必要であり、住民の皆さんとの協働が不可欠です。また、苫小牧市を中心とした苫小牧定住自立圏は産業構造や交通の要衝として様々な可能性を秘めていることから、イノベーション実装の受け皿として、これまで同様に注目度は高く、新時代における広域連携は必至です。また、積極的な災害復旧・復興計画の負担が次世代の過度な足枷とならないよう、財政計画の公開を通じて透明性を確保し、町民の皆様のご理解とご協力をいただく取り組みを充実してまいります。



- ・その他、企業版ふるさと納税の活用
- ・立地適正化計画の策定により厚真市街地、上厚真市街地における都市機能の再編を検討
- ・コンパクト＆ネットワークによる地域活性化
- ・BWA・ローカル5Gの導入など高速通信基盤整備



- ・地域公共交通ネットワーク、システムの再構築
- ・自動運転や農林水産業におけるICT、IoT技術の活用により生産性の向上と生活の利便性の向上を図る
- ・東胆振定住圏域での医療・介護・交通・観光など行政資源やサービス基盤の標準化と補完共有化
- ・苫小牧港東港区周文埠頭の耐震強化岸壁整備
- ・苫小牧東部地域の開発促進など

3. 安全・安心な地域社会の形成

厚真川の改修は厚真川総合開発計画に沿って昭和49年から改修が始まりました。令和2年に暫定断面での改修が完了しますが、昨今の気象変動を鑑みますと、一刻も早い完成断面での整備完成が必要です。引き続き、早期完成に向けて予算の確保を要望してまいります。また、入鹿別川の改修についても、同様に、早期完成と道管理河川の上流部の厚真町管理河川についても、北海道の管理下に置いて必要な施設保全がなされるよう、また、内水排除機能についても、併せて構築されるよう要望してまいります。

- ・その他、都市計画道路苫小牧厚真通りの道道昇格と早期事業着手
- ・道道豊川遠浅停車場線歩道設置
- ・頗美宇川の改修と松浦橋の架け替え、道道夕張線の改修
- ・上幌内早来停車場線の曲線緩和
- ・開発道路北辰平取線の早期復旧
- ・道道厚真浜厚真停車場線整備促進
- ・町道新町フォーラム線整備
- ・厚真大通りの延長
- ・水道配水管の耐震化・長寿命化など



4. 環境保全と域内循環、そして交流促進

空き家対策については、特別措置法により、所有者に対する責任と市町村における指導義務が課されることになりましたが、放置しておけば地域の迷惑施設でも、適切な制度により有用な資産に生まれ変わることが可能です。特に、人口減少が進む市街化調整区域においては、活性化の一助となりますので、積極的な運用が図られるよう、地域と協力してまいります。

本町が構成員となっているコンソーシアムで計画している地産地防エネルギー6次産業化プロジェクトにより、被災木のバイオマス発電と太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの公共施設群での活用を図り、エネルギーと付加価値の域内循環を高めてまいります。また、予てからFIT制度により認可されていた富里地区における太陽光発電所の早期建設を目指します。

- ・その他、外国人材との交流と共生支援（スポーツ施設の活用、日本語学習、文化交流等）
- ・大学生、社会人参加のふるさとワーキングホリデーの検討
- ・古民家再生とゲストハウス・ワイナリー・ブリュワリーなど酒造研究など



乱雑、乱文で意を尽くせませんが、結びにキャッチフレーズ（案）を添えました。



みんなの夢と輝く笑顔を
自らの手で取り戻そう。
意志あるところに道は開けると信じて、
あつまの限りない潜在力を耕し、
全世代が力を合わせて復旧から復興の
その先へ、挑み続けましょう。

今後の活動予定

本来であれば、皆様と様々意見交換を行いたいと考えていましたが、新型コロナウィルス感染拡大予防対策として、当面は、地区幹事の皆様を通じての意見集約とさせていただきますことご了承願います。

また、後援会事務所開きは、6月6日頃を予定していますが、コロナ禍の収束状況を見ながらの取り組みとさせていただきたいと考えており、詳細については、改めてお知らせします。

厚真町長選挙の告示日は、6月23日の予定と伺っています。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。